

大分県文化財保存活用大綱とは

第1章

平成30年に改正された文化財保護法に基づき、今後の大分県における文化財の保存と活用の基本的な方向性を、大分県文化財保存活用大綱として取りまとめました。

大分県の文化財を取り巻く社会状況

【文化財を取り巻く情勢】

- 過疎化・少子高齢化の進行
- 文化財への興味・関心の希薄化
- 大規模自然災害の発生
⇒文化財の散逸・滅失の危機

【様々な地域資源としての文化財の活用】

- 市町村と地域住民が連携した文化財保存・活用の取組
- 学校教育や観光・まちづくり行政との連携
- 世界農業遺産など文化財行政以外での文化財保護活動
⇒文化財を活用した地域活性化

大分県の文化財を次世代へつなげるために

第1章

文化財は、子どもたちが身も心も健やかに育ち、大人たちが歴史と文化の厚みの中で互いに交流しながら幸せに働き、高齢者が生き生きと健康に暮らせる地域社会を創る重要な資源です。

■文化財保護 「保存」と「活用」

- 文化財の価値を守り、永く伝えていくために、しっかりとした調査・研究に基づく文化財の指定と文化財の価値を維持するための保存修理に努める。
- 多様な地域資源である文化財を、暮らしの中に息づかせ、地域住民とともに活用することを通して、持続可能な文化財の保存体制の確立を目指す。
- 文化財を活用することで地域振興を図り、文化財の保護につながる好循環を生み出すことで、地域社会の活性化に寄与する。

豊かな歴史と文化に彩られた大分県

第2章

大分県は、複雑な地形と地質構造を有し、豊かな自然環境に恵まれています。本県の歴史と文化は、多彩な自然環境のもとで育まれており、有形・無形の特色ある文化財が満ちあふれています。

■豊かな自然環境

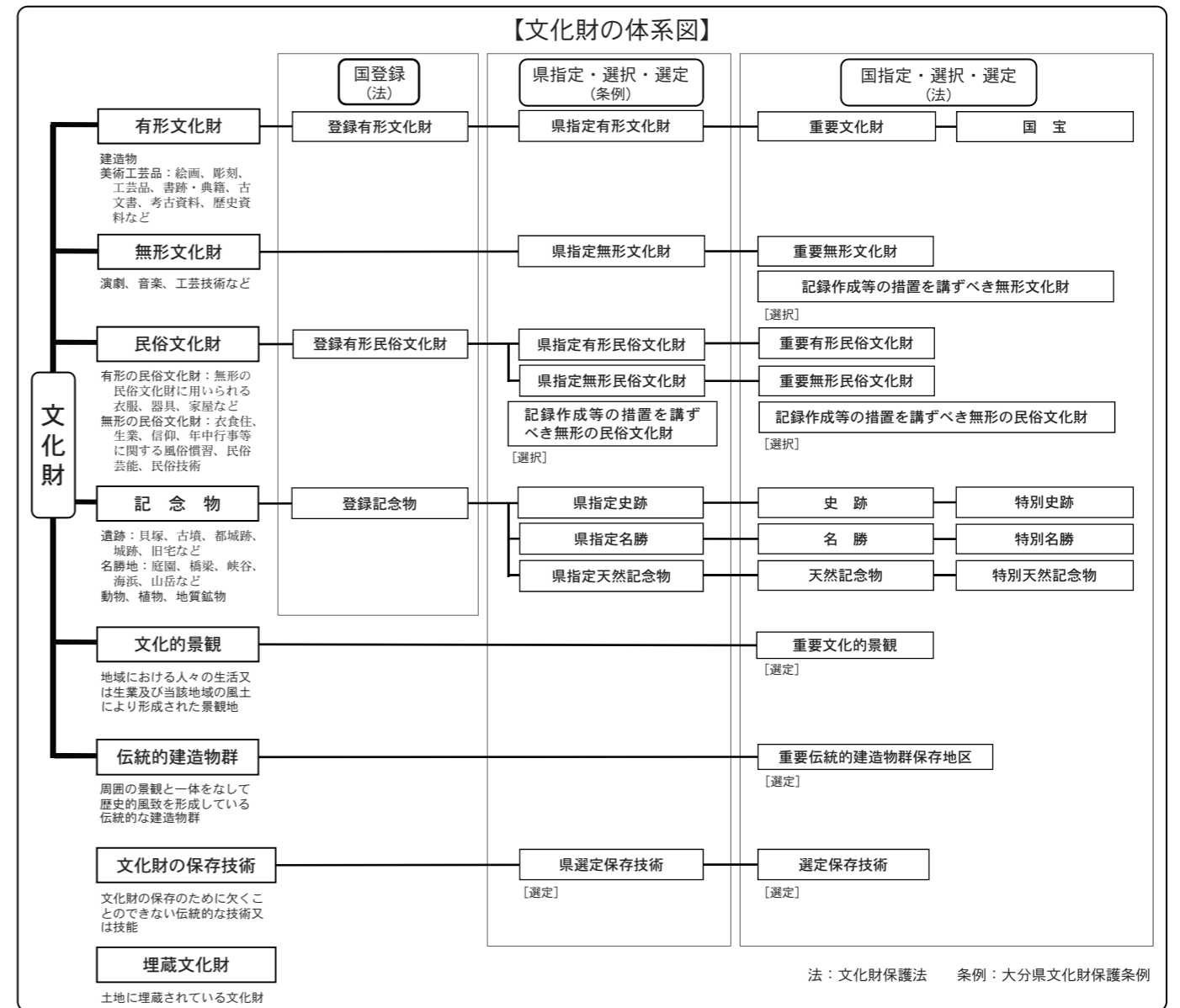
- 大分県は九州東岸に位置し、北は周防灘、東はリアス海岸の豊後水道に面しており、城下かれい、まぐろ、ぶりなど、豊かな海産物に恵まれている。
- 九重火山群、由布・鶴見火山群等の火山が存在するため、各所に温泉が湧出し、溶岩台地等の侵食によって奇岩・奇峰が連続する「耶馬」と呼ばれる特徴ある地形が広がる。
- 本県の複雑な地形は気候にも影響しており、比較的によくの気候区分に分けられることから、カモシカ、オオサンショウウオやミヤマキリシマなど、様々な動植物が生息する。

■大分県の多彩な歴史と文化

- 原始・古代：瀬戸内海を通じた交流を背景に、畿内の影響を受けた前方後円墳が築かれた。また、宇佐宮を中心とした八幡神の信仰は、時々の政局と関わりながら日本全国に広がった。
- 中世・近世：大友氏による東南アジアとの交易やキリスト教の受容を背景に、県域にはキリシタン文化が花開いた。また、近世の「小藩分立」は、各地域ごとに特色ある様々な文化を生み出した。
- 近代・現代：明治4年（1871）に日田県を、同9年に中津・宇佐両市を統合して、現在の大分県が成立した。海路の整備や掘削技術の革新を背景に、別府は日本有数の温泉観光地へと成長した。

文化財の類型と大分県の文化財

第2章



種別	国宝等	国指定・選定	県指定・選定	国登録	国選択	県選択	
有形文化財	建造物	2	30	208	231		
	美術工芸品	絵画		7	27		
		彫刻	1	31	109		
		工芸品	1	7	70		
		書跡					
		典籍		2	31		
		古文書		3			
		考古資料		5	36		
歴史資料		1	16				
計	2	56	289				
小計	4	86	497	231			
民俗文化財	有形		4	14	1		
	無形		7	47		14	
	小計		11	61	1	14	
記念物	史跡	1	43	107			
	名勝		6	6	6		
	天然記念物	2	22	79			
小計	3	71	192	6			
重要文化的景観		4					
重要伝統的建造物群保存地区		2					
選定保存技術			1				
合計	7	175	753	238	14	23	



宇佐神宮本殿（宇佐市） 孔雀文馨（宇佐市）

大分県の国宝



臼杵磨崖仏（臼杵市） 富貴寺大堂（豊後高田市）

*「国宝等」は「国宝」「特別史跡」「特別名勝」「特別天然記念物」を指す。
* は法及び条例上、指定等の制度のないもの。

大分県の特徴ある関連文化財群

第2章

豊かな自然環境のもとで、多様な歴史と文化に彩られた大分県には、「日本遺産」に認定された3件のストーリー以外にも、特色ある文化が多く残っています。ここでは、様々なテーマのもと、各種文化財を関連づけて紹介します。

■瀬戸内海を通じた古墳文化の交流

県域は、原始以来、瀬戸内海を通じて畿内との交流があった。特に古墳時代には、ヤマト王権による国家形成に端を発し、畿内との交流が活発となった。県域には、畿内の影響を色濃く受けた古墳が多く残されている。

国史跡：川部・高森古墳群（宇佐市）
亀塚古墳（大分市）
県史跡：白塚古墳（白杵市）など



国史跡 亀塚古墳（大分市）

■八幡神の信仰と六郷山

宇佐に現れた八幡神は、養老4年（720）の隼人出兵を契機に、時々の政局に関わることで国家の守護神へ変貌した。宇佐宮の神宮寺であった弥勒寺の僧の修行の場となった国東半島には、平安時代後期、「六郷山」と呼ばれる天台宗寺院群が形成され、特色ある仏教文化が開花した。

国宝：宇佐神宮本殿（宇佐市）
富貴寺大堂（豊後高田市）
国名勝：天念寺耶馬及び無動寺耶馬（豊後高田市）など



重要文化財 岩戸寺宝塔（国東市）

■石造文化財の宝庫

県域は、阿蘇溶結凝灰岩に広く覆われ、多くの火山が存在したことから石材が豊富であった。この石材が、人々の信仰と結び付くことで、磨崖仏や多彩な石塔類が造られた。また、交通と結び付いたものが、県内各地に残る多数の石橋である。

国宝・特別史跡：白杵磨崖仏（白杵市）
重要文化財：岩戸寺宝塔（国東市）
虹澗橋（白杵市・豊後大野市）など



重要文化財 大分県府内大友氏遺跡出土品（大分市）

■大友氏による交易の推進とキリシタン文化

守護大友氏による豊後国支配の最盛期に君臨した大友宗麟は、東南アジアとの交易や、キリスト教を通じた西欧との関係を推進した。本県のキリシタン文化は、人々が新しい宗教をいかに受け入れ、どのように地域に広めていったかを示す重要なものと言える。

重要文化財：大分県府内大友氏遺跡出土品（大分市）
国史跡：大友氏遺跡（大分市）
下藤キリシタン墓（白杵市）など



国名勝 天念寺耶馬及び無動寺耶馬（豊後高田市）



国史跡 福沢諭吉旧居（中津市）



重要文化的景観 別府の湯けむり・温泉地景観（別府市）

【大分県の日本遺産】

- 近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—（日田市、水戸市、足利市、備前市）
- やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく（中津市、玖珠町）
- 鬼が仏になった里「くにさき」（豊後高田市、国東市）

■多彩な文化を生み出した小藩分立

江戸時代、県域には8藩領のほか、幕府直轄領、宇佐宮領、島原・延岡・熊本各藩の飛び地領など、様々な領域が存在した。この「小藩分立」を背景に、多くの各界人、地域ごとの多彩な伝統芸能や祭礼行事、食文化、杵築藩の七島藪に代表される物産などが生み出された。

重要文化財：三浦梅園遺稿（国東市）
国史跡：咸宜園跡（日田市）、福沢諭吉旧居（中津市）など

■温泉を資源とした観光

本県には様々な泉質の温泉があり、とくに「べっふ」「ゆふいん」は「おんせん県おおいた」を象徴する地域と言える。別府の湯突き技術は、同地が日本屈指の温泉観光地へと成長する原動力となり、さらに他の温泉地に伝播して、温泉掘削の発展に寄与した。

国名勝：別府の地獄（別府市）
重要文化的景観：別府の湯けむり・温泉地景観（別府市）
国登録有形民俗文化財：別府の湯突き用具（別府市）など

■各地を彩る伝統芸能と祭礼行事

本県には、江戸時代の「小藩分立」を背景に、多彩な伝統芸能や祭礼行事が伝わっている。芸能では、神楽・盆踊・楽打ちが広範囲に分布するが、御田植祭・棒術・獅子舞等は地域的な偏りがある。祭礼では、五穀豊穡や無病息災を祈願する様々な祭のほか、正月・初盆行事や祇園などがある。

重要無形民俗文化財：修正鬼会（豊後高田市・国東市）
御嶽神楽（豊後大野市）
国選択無形民俗文化財：姫島の盆踊（姫島村）など

■江戸時代にはじまる地域ごとの食文化

本県は瀬戸内海と太平洋に面し、平地が少なく山が多い変化に富んだ地形である。この地形が豊かな山海の幸をもたらし、多様な食文化を生み出してきた。「りゅうきゅう」をはじめ、各地に残る郷土料理は、山海の幸を堪能するとともに、貴重な食材を活かすために生み出されたものである。

ほうちょう（大分市）、けんちん（中津市）、うれしの（杵築市）、頭料理（竹田市）、きらすめし（白杵市）、団子汁、やせうま、りゅうきゅう（県内全域）など



郷土料理りゅうきゅう（県内全域）



国選択無形民俗文化財 姫島の盆踊（姫島村）

目指すべき将来像と方向性

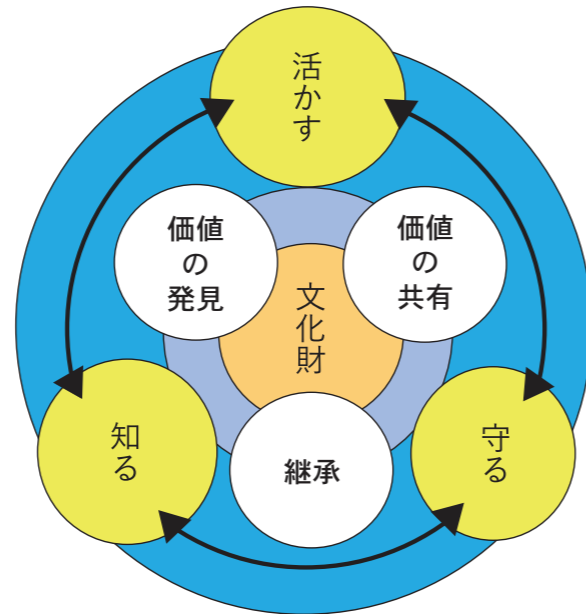
第2章

基本方針のもと、文化財を「知る」「活かす」「守る」取り組みを推進し、持続可能な文化財保護体制の確立を目指します。

■目指すべき将来像

- 人々が地域の文化財を「知る」
⇒価値の発見
- 様々な地域資源として「活かす」
⇒地域の活性化
- 価値を共有し「守る」
⇒保護体制の確立

人々が文化財の価値を主体的に発見し、その価値を共有することにより、持続可能な文化財の継承が図られる社会の構築



持続可能な文化財保護体制のサイクル

■方向性

【文化財を「知る」】

- 文化財に触れる活動を通して、自らその価値と在り方を発見することで、文化財を身近なものにする取組を推進する。

大分の文化財
フォトコンテスト
#レガシー (日田市)



【文化財を「活かす」】

- 文化財の活用を図る取組を推進することで、地域の活力を増進させ、地域社会の活性化に寄与する。

2019年度日本博
「NOBODY KNOWS
豊後高田公演」



【文化財を「守る」】

- 地域が主体となって進める文化財保護活動を積極的に支援する。
- 文化財の奥深さに触れる機会の提供を通して、文化財保護の継承者や担い手を育成する。

岡城清掃の日
(竹田市)



文化財の保存・活用を図るために講ずる措置

第3章

目指すべき将来像と方向性に沿って、県や市町村、文化財所有者や地域住民、関係団体と連携し、「オール大分」で文化財の適切な保存・活用に取り組んでいきます。

■文化財の保存

- しっかりとした文化財の調査・研究
- 調査・研究に基づく文化財の指定
- 国・県の文化財関係補助制度の活用
- 民間団体等の助成金やクラウドファンディングの活用
- 文化財保存活用地域計画・保存活用計画作成の促進
- 類型に応じた文化財の維持・管理、修理・整備



発掘調査 (豊後大野市)

■文化財の活用

- 文化財活用のあり方の変化
⇒「公開による活用」から「地域振興への活用」へ
- 県の文化財活用の取り組み
⇒文化財の修復現場公開、日本遺産周遊ツアー、フォトコンテスト
- 地域で広がりつつある好事例の普遍化
⇒平田邸活用推進協議会 (中津市)
⇒AR等の先端技術を用いた岡城跡の魅力発信 (竹田市)
- 学校教育との連携強化
⇒主体的・対話的で深い学びを実現
⇒児童・生徒の郷土愛を育み、文化財の守り手を育成
- 文化財情報のデジタル化と情報発信の推進



平田邸活用推進協議会 (中津市)

■文化財をささえる人材の育成

- 文化財の継承者の育成
⇒地域住民が地域の文化財を探究することをサポート
- 文化財の保護を担う専門的知識・技能を有する人材の育成
⇒体系的かつ計画的な研修の実施
- 文化財愛護少年団や子どもガイド等の活動支援
- 社会教育機関による学校教育との連携強化
⇒児童・生徒を主役とした展示等の体験
- 関係機関・団体との連携
⇒文化財ガイド等の地域人材の掘り起こし



第40回 大分県文化財愛護少年団の
つどい記念大会 (宇佐市)

市町村への支援の方針

第4章

市町村が特色ある文化財の保存・活用を推進できるよう必要な支援を行います。

- 市町村が単独で、あるいは「日本遺産」のような共通テーマに基づいた連携で、文化財の保存・活用を推進できる体制づくりに努める。
- 地域計画作成とその推進に当たり、全市町村が大綱の示す基本方針のもとで、適切な文化財の保存・活用に取り組めるよう、継続的な指導・助言を行う。

防災・災害発生時の対応

第5章

近年多発する大規模自然災害をふまえ、大切な文化財を災害から守る取組を推進します。

- 防犯・防災対策：文化財の定期的な巡視を行うとともに、文化財データの収集・共有、デジタル化と情報発信に努める。
- 復旧に向けた取組：情報収集に努めるとともに、文化財ドクター派遣事業や文化財レスキューの実施体制整備に努める。